

地域包括支援センター中央北だより

9月は世界アルツハイマー月間

1994年「国際アルツハイマー病協会」(ADI)は、世界保健機関(WHO)と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に認知症の啓蒙を実施しています。また、9月を「世界アルツハイマー月間」と定め、様々な取り組みを行っています。アルツハイマー病等に関する認識を高め、世界の患者と家族に援助と希望をもたらす事を目的としています。



昨年度のアルツハイマー月間の様子

2025年全国で認知症700万人！
65歳以上の5人に1人が認知症
岐阜市では23400人が認知症！
18~64歳の若年性認知症は
全国で4万人近く！（平成27

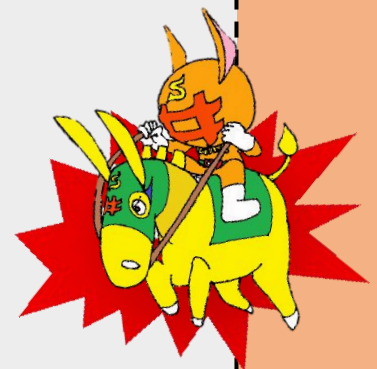
認知症は誰にでも起こりえます。
 (高齢者だけではありません。)
 周囲の人の理解と支援が大切です！



岐阜市認知症啓発キャラクター

~こんなことに心当たりはありませんか？~ チェックしてみましょう！

- 同じことを何度も言う・聞く
- しまい忘れ、置き忘れなどいつも探し物をしている
- 料理、計算、運転などのミスが多くなった
- 話のつじつまが合わないことがある
- 約束の日時や場所を間違える、道に迷う
- 人柄が変わった、ささいなことで怒りっぽくなった
- 「このごろ様子がおかしい」と周囲の人から言われた
- 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 「頭が変になった」と本人が訴えるようになった
- 何をするのも億劫がる、好きなことに興味を示さない



項目にチェックが入った方は下記の地域包括支援センターにご相談下さい

岐阜市地域包括支援センター中央北

開所時間：月曜日～土曜日 9：00～17：00 (日・祝日・12/29～1/3除く)

【住所】岐阜市京町2丁目2番地 【電話】058-213-0128



認知症の診断を受けたご本人やそのご家族の声

認知症の診断を受けたご本人やそのご家族から、
今の思いや貴重なご意見をいただきありがとうございました。



家族A 認知症の診断を受けた後、どこに相談をすれば良いのか分からず不安だった。診断後、すぐに相談できる場所、社会制度を教えてくれるといいと思

本人B 認知症の診断を受けた自分のことを、周囲から何と言われても、自分は自分だと思っている。会社内で認知症だと知ってもらっていた。



家族C 診断当時は周囲に知られたいくなかったが、症状が進行した時に近所の人に話したことで気持ちが楽になった。地域の人に知ってもらったことで、助けてもらっている。

家族B 自分が病気で倒れたら、どうしたらいいのかと常に不安がある。



本人A つどいや認知症カフェは自分の思いを話すことができるから、大切なところ。周りの人が話を聞いてくれて救われた。

家族D いろんな集いの場所に行って人とつながりたい。思いを話す場所がいろんなところにあると良い。つどいに参加したことで、自分たちだけではないと安心でき、ほっとできる時間になった。



家族E 人間は一人一人性格が違う。それぞれ違っていい。認知症でも若年性の認知症もある。みんな同じ症状ではない。

周囲の人の理解と支援が大切です